自民党総裁選2018

中堅・若手に聞く

対抗馬は主張の違い明確に

二階派▶▶ 武田良太氏

(宮川浩和撮影)

たけだ・りょうた 昭和43年4月、福岡県赤池町(現・福智町)生まれ。50歳。早稲田大学院修了。亀井静香元金融担当相の秘書を経て、平成15年衆院選で福岡11区から出馬し初当選。防衛副大臣などを歴任し、現在自民党副幹事長。衆院当選6回。

9月の自民党総裁選について、私が所属する志帥会(二階派、44人)では、会長の二階俊博幹事長が安倍晋三首相(総裁)の3選支持を明確にしています。私も安倍さんは歴史に名を残す首相になると思いますよ。個々の物事を着実に前に進める点は素晴らしい。

安倍さんは外交で成果を挙げています。トランプ米大統領との関係もそうですが、東南アジア諸国連合(ASEAN)や中南米、欧州、インドも含め各国と良好な関係を築いている。まさに多面的で重層的な外交を展開し、一国平和主義から脱却しています。これを身をもって具現化していることは間違いないでしょう。ここまで堂々たる外交を行えるのは、中曽根康弘元首相以来だと思います。

総裁選に向け、安倍さんが正式に出馬表明したら当然支持します。志帥会としても支えることになる。私も、今は副幹事長として二階幹事長に仕える身なので、しっかりと自分の責務を果たしていきたい。

■ ■

総裁選には、安倍さん以外にもどんどん出馬してほしい。自民党にこれだけの人材がいるというところを国民や世界に見てもらうためにもね。しかし、出るからには安倍さんとの違いを明確にできる人でないといけません。出馬する方々に頼みたいのは、明確な判断材料の国民への提示です。その上で、活発な議論を期待したい。

安倍さんに対抗するということは、安倍さんでは駄目だとか、自分の方がよいと思っている人でしょう。それならば、安倍さんとは何が違うか。「現状のどこが駄目で、自分だったらこうする」という主張を明確にできる人でなければ出馬する価値はないですよね。ただ単に、権力闘争のためだけに出馬するのはナンセンスです。出馬する資格はないと思う。

政策でいえば、例えば「女性活躍の推進」。安倍さんも首相として取り組んでいるので、総裁選の判断材料ではないと思うのです。憲法なら、基本的には改憲か護憲かしかないだろうが、自民党は自主憲法制定が党是ですから。

安倍さんと石破茂元幹事長は憲法改正への考え方の違いが浮き彫りになりましたが、あれはあくまでテクニック論、解釈論です。登山に例えると、自主憲法の制定という同じ頂上を目指しているのに、登り口が違うだけの話です。

■ ■

安倍さんは昨今失われた国家観を持った政治家ですよね。われわれは伝統的な保守政党の自民党です。国家観を示さない政治家は、伝統的な保守政党のリーダーにはふさわしくない。

志帥会としては、「安倍政治」に何を求めていくのかを明確にする必要があると考えています。志帥会のビジョンを明確にして、安倍さんに「ここは理解してくれ」と明示すべきでしょう。政策集団とは、自らの理想を国家に反映させるという思いを持った上での仲間ですから。

(大島悠亮)

安倍さん 歴史残る首相になる